

誰一人取り残さないための学力向上アクションプラン

令和 7 年 5 月 1 日現在 江戸川区立平井小学校

全国学力・学習状況調査		
A・B層の割合		
年度	国語	算数
令和 8 年度の目標	60.0%	60.0%
令和 7 年度の目標	55.0%	55.0%
令和 6 年度の結果	40.0%	43.3%
令和 5 年度の結果	49.5%	38.9%

令和 6 年度江戸川区学力調査結果		
A・B層の割合		
学年	国語	算数
第 6 学年	49.5%	66.3%
第 5 学年	53.1%	54.5%
第 4 学年	56.1%	54.9%
第 3 学年	47.6%	44.5%

	目標達成に向けた取組		
	教員の指導力向上	基礎学力の保障	学習習慣の確立
	学校全体の取組	・ 年 3 回の東京ベーシックドリルの診断シートに取り組む。これまでの結果も併せて、特に得点の低かった問題を中心に復習を行う。 ・ 4 年生以上で年間 3 0 回よむYOMUワークシートに取り組み、読む力の向上を図る。	・ 年 3 回のStudy weekの実施や、ミライシードなどの活用により、児童が自分の課題を把握して取り組む機会を設定する。 ・ 東京ベーシックドリルの診断シートの結果を保護者と共有し、児童の課題解決に向けて協力を呼びかける。
	特に支援が必要な児童・生徒への手だて	・ C層の児童は放課後学習事業者のと連携を図り、既習事項の定着を図る。（4～6 年） ・ D層の児童は、校内で担任が放課後補習をする日を設定し、反復練習により基礎的な内容の定着を図る。（全学年）	・ ドリルパークなどを活用し、学習内容と取り組んだ時間を確認することで学習方法を客観的に捉えさせる。見通しをもって課題に取り組めるよう、個別に声をかけ、具体的に学習内容を提示する。
成果指標	・ 全国学力学習状況調査「児童・生徒質問紙」における設問「国語・算数の授業の内容はよく分かりますか」への肯定的な回答が 8 5 % 以上を達成しているか。	・ 3 学期の東京ベーシックドリルの算数診断シートにおける正答率が 5 割を下回る単元を、全単元の 3 割以下にする。	・ 全国学力学習状況調査「児童・生徒質問紙」における設問「学校の授業時間以外に 1 日当たりどれくらいの時間、勉強しますか。」「1 時間以上」の回答が 9 0 % 以上を達成しているか。